

第8回 『仕組まれた幸福』 (通算28回)

2005.5.19

「幸福」は全ての人の願い、だから誰もそれを求めて生きています。幸福を求めることには何の罪もあろうはずありません。しかし誰もが欲しいものだからこそ、それはまたある意味で永遠の商品ともなり得ることを忘れてはなりません。

人の願いは限(キリ)のないもの、だから商品のネタにも限がありません。もし棚に飾る商品に困ったら新たにそこに置くものを考え出す。次から次へと新たな商品を生み出す、それも人の性というものです。そして、人が一番欲しがるとは間違いなく一番人気の商品となることになります。

健康という願望があります。生きてゆく上での最も基本的な願望、だからこそそれは全ての人にとって大事なものです。確かに、「病気にならないために」とか「不快な症状を取り去るために」ということは重要なことであって、医療というものの根本的な存在価値を証明するものです。しかし、それは時としてその範疇を乗り越えて別の願望へとつながってゆくことがあります。そしてその時、健康は立派な商品として扱われてゆくのは事実であろうと思います。

漢方薬にどのような薬能があるのか、ずっとお話をしております。そしてそれを見極める方法についてお話しております。しかしそれが正しく理解されなければ、漢方薬はそのイメージからしてとっておきの商品棚に乗せられることにもなるはずです。

また、東洋医学には養生という考え方があるという話をいたしました。つまり、健康であるために必要なのは何も薬だけではないということ。冷静に考えてみれば当たり前のことなのですが、しかし巧妙に「幸福」を目の前にぶらさげられると人は簡単にその冷静さを失うことがある…。

漢方薬が持つ本来の目的、それは正しく理解されるべきものであるはずですが、そうでなければそれが持つ本来の価値までもが失われかねません。それは結局、誰の為になるものでもないはずですが。

そして本日の番外編では「オリエンタルマジック」という言葉を取り上げます。大航海時代、未知の東洋に神秘を感じたヨーロッパの人々のロマン。しかし、その同じロマンがそれから500年以上もたった現代に、しかも東洋に存在しているという不思議について考えてみましょう。

知識を超えて思考の世界へ。どうぞわれわれがご用意いたしました診察室へお出かけください。さあ、本日も漢方診療のはじまり、はじまり。

【本日のkeyとなる生薬】

大 黄 芒 硝

それぞれの生薬から『思いつく処方』をご想像ください。その処方の目的はどこにあり、そしてどのように使い分けるのでしょうか。

【本日の内容について、ご確認ください】

大黃甘草湯：大黃、甘草

調胃承氣湯：大黃、芒硝、甘草

大承氣湯：大黃、芒硝、厚朴、枳實

桃核承氣湯：大黃、芒硝、桃仁、桂枝、甘草

大黃牡丹皮湯：大黃、芒硝、桃仁、牡丹皮、冬瓜子

通導散：大黃、芒硝、紅花、蘇木、當歸、枳實、厚朴、
木通、陳皮、甘草

防風通聖散：大黃、芒硝、麻黃、石膏、黃芩、山梔子、滑石、防風、桔梗、
連翹、荊芥、薄荷、白朮、川芎、當歸、芍藥、生姜、甘草

大柴胡湯：大黃、柴胡、黃芩、半夏、生姜、大棗、芍藥、枳實

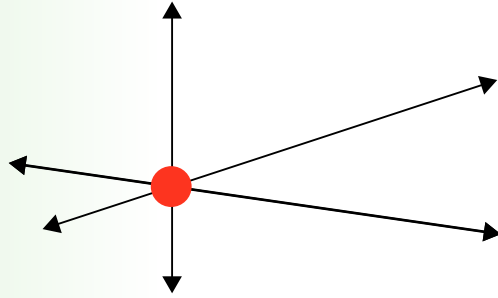
ポイント

■「瀉」の意味

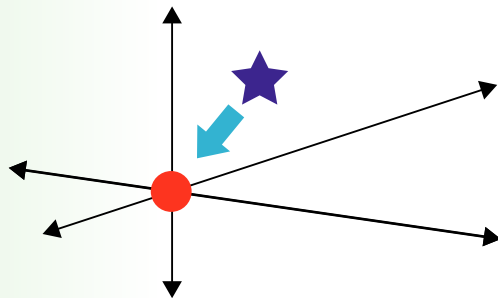
今回からご参加の先生方へ

本日のテーマは「瀉」です。瀉とは「不要なものを捨て去る」という意味です。
これと反対の関係となる「補」と同様、「瀉」も東洋医学にとって重要な治療概念です。

東洋医学においては中庸という考え方があります。中庸とは「どちらの方向にも偏っていない状態」ということです。人の状態は様々なベクトルで表すことが出来ますが、それらが均衡を保ち、好ましい状況にあることを中庸という言葉で表します。



この図で言えば、中央に位置する●のところの中庸ということですが。
しかし、我々は様々な要因でこの中庸から外れることがあります。例えば★のような位置にいる場合には(薬剤で補正しようとするならば)➡のような方向性を持った薬を使って中庸に戻そうとするわけです。これが東洋医学における治療概念の基本となります。



「瀉」と「補」もこの概念の一部です。「何かが余っていれば瀉によって中庸に戻す」「何かが不足していれば補によって中庸に戻す」ということです。決して難解な概念ではないはずです。

しかしここで重要なのは、この中庸が「その本人にとっての中庸」であるということなのです。生まれつき備わった体格や性質、このようなものは誰にとってもあるものです。決して他の人と比較することにより個人の中庸が規定されるものではありませんし、中庸からのズレも他者との比較の上で判断されるものではないということです。

そうでなければ「個の医療」が成立しないはずであることは理解に難くないと思います。